

## 菜種直播栽培の品種及び播種期と栽植密度について

吉倉吉司\*・吉田軍三\*・岩元 保\*・持留一成\*

YOSHIKURA, K., YOSHIDA, G., IWAMOTO, T. and MOCHIDOME, K.  
On the Varieties, Sowing Date and Spacing Density  
of Direct Seeding Culture in Rape Plant.

## 1. まえがき

鹿児島県における、菜種の栽培面積は約 32,000 ha で畑作栽培が多く、直播栽培は作付面積の 30% で移植栽培が大部分であるが水陸稲早期栽培の普及に伴い、菜種の直播栽培面積が増加の傾向にある。今後の菜種栽培は品質（油分含量）の向上と省力多収栽培により生産費を切り下げ安定した菜種栽培を確立することが極めて必要である。直播栽培は省力増収の面からも有利であり農業経営に浸透する可能性も大きいと考えられる。以上の事から菜種直播栽培の品種及び播種期と栽植密度の試験を 1959~1960 年に行つたので其の結果を報告する。

## 2. 試験方法及び結果

供試品種 農林 14 号 アブラマサリ

1 区面積及び区制 1 区 15 m<sup>2</sup> 2 区制。

第1表 試験区の構成

試験 番号	品 種 名	播種期	a 当株数	畦 巾	株 間
1	農林 14 号	10. 5	370	60	45
2	"	"	555		30
3	"	"	740		22.5
4	"	10. 20	370		45
5	"	"	555		30
6	"	"	740		22.5
7	"	10.5播 12.1植	370	60	45
8	アブラマサリ	10. 5	370	60	45
9	"	"	555		30
10	"	"	740		22.5
11	"	10. 20	370		45
12	"	"	555		30
13	"	"	740		22.5
14	"	10.5播 12.1植	370		45
予1	農林 14 号	11. 10	740	60	22.5
予2	アブラマサリ	"	555		30
予3	"	"	740		22.5

註：直播の播種は点播で1ヶ所5~6粒播、間引2回1本立とした。

第2表 移植区苗床の施肥量及び施肥法 (m<sup>2</sup>当)

肥 料 名	基 肥	追 肥	
		第 1 回	第 2 回
堆 肥	1,130	—	—
硫 黄	34	11	11
過 塩 酸 灰	57	—	—
堆 肥 加	11	—	—

註：苗床の播種密度 15cm×15cm に 4-5 粒点播し、2回間引き1本立とした。

## 3. 考 察

播種期と菜種の生育：播種期が早いほど抽苔期、開

第3表 本圃の施肥量 (a 当kg)

肥料名 区 別	基 肥						追 肥	
	堆肥	硫安	過石	増加	石灰	ホウ砂	第1回	第2回
直播区	124.8	1.1	3.6	0.9	9.5	0.1	1.0	1.0
移植区	113.4	1.6	3.0	0.8	9.5	0.1	1.0	1.1

註：直播区の施肥量は移植区の苗床に施用した肥料 (a 当 10m<sup>2</sup>分) を加えたものである。

第4表 観察及び収量調査

項 目	開花期	成熟期	草丈	穂長	總分枝数	菌核病	ウイルス病	細菌性黒斑病	a 当子実重	同左比率
1	2.25	5.10	137	40	58	本	中	少	23.1	118
2	2.25	5. 9	140	39	39	少	中	少	26.9	138
3	2.25	5. 9	136	35	33	中	中	中	26.5	136
4	2.28	5.13	140	41	52	中	中	中	22.4	115
5	2.28	5.14	145	41	39	中	中	中	26.3	135
6	2.28	5.13	143	41	31	少	中	中	27.4	141
7	2.26	5.12	129	36	45	中	中	中	19.5	100
8	2.27	5.18	138	37	50	中	中	中	28.4	125
9	2.27	5.18	143	37	46	中	中	中	29.3	129
10	2.28	5.17	154	36	29	中	中	中	31.8	140
11	3. 5	5.18	158	44	49	少	中	中	28.2	124
12	3. 5	5.19	162	42	40	少	中	中	29.6	130
13	3. 5	5.19	164	40	30	中	中	中	35.0	154
14	2.27	5.19	138	41	47	中	中	中	22.7	100
1	3.11	5.19	139	35	27	中	中	中	18.5	95
2	3.10	5.20	136	38	36	中	中	中	24.3	107
3	3.10	5.12	139	35	27	中	中	中	27.1	119

花期、成熟期は早い、草丈穂長は 10月20日播が2ヶ年とも長い。10月5日播は生育期(12月下旬)頃に肥料切れの傾向があつたのでその影響のため草丈穂長が短い。總分枝数は播種期が早いほど多い傾向がある。

栽植密度と生育：草丈はアブラマサリでは密植区(22.5cm)が長く農林14号でははつきりした傾向が認められない、穂長は両品種共疎植区が僅かに長い。分枝数は1個体当りでは疎植区ほど多く、m<sup>2</sup>当では密植区が多い傾向がみられる。

直播区と移植区の比較：農林14号は草丈穂長は直播区が長く、分枝数も多いが、アブラマサリは草丈分枝数は、農林14号と同じ傾向であるが穂長は移植区が長い。病害では早播ほどウイルス病、菌核病の発生が多く又密植ほど菌核病の発生が多い傾向があるが大差はなかつた。収量は10月5日播と10月20日播の間に殆んど差がなく何れも移植区に優り、栽植密度間では密植ほど多収を示すが晩播の場合はその差が大きい。参考区として設置した11月10日播の極晩播も密植すれ

\* 鹿児島県農業試験場

ば標準移植区同程度以上の収量を示した。品種間では早播の場合は農林 14 号が収量が多く、晩播の場合はアブラマサリが収量の多い傾向がみられた。

#### 4. むすび

菜種を直播する場合の品種及び播種期と栽植密度について 1959～1960 の両年にわたり試験を行つた結果、両年共直播栽培は移植栽培に比べて収量が多かつた。然し播種期が早いと病害の発生が多く収量もあまり多くない。収量、災害回避、労力等の面から考え、南九州平担地では 10 月中旬頃が適期と考えられる。栽植密

度は 60 cm、株間 22.5 cm の 1 本立（密植区）が収量が多く播種期が遅れるほど密植の効果が大きい。又 11 月 10 日の晩播でも密植すると経済的な栽培が可能であることが認められたが密植の限界については更に検討したい。品種は早播の場合、農林 14 号が収量が多く、晩播の場合はアブラマサリが優る。アブラマサリは早播すると寒害をうけやすいので、晩播したほうがよいと思はれる。今後の問題として機械力利用による、菜種直播栽培等の省力栽培の面を検討したい。